

令和 6 年度 第 1 回 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会 議事概要

日時：令和 6 年 10 月 21 日（月）15:00～17:00
場所：佐賀河川事務所 1 階会議室

【出席者】

対 面）大串委員長、押川委員、加藤委員、古賀委員、田島委員
W E B）後藤委員、重藤委員、滝川委員、徳田委員
※ 山西委員、山本委員は別日に個別説明

【結 果】■ 委員 ○ 事務局

1. 懇談会の規約等の改定について（資料-1）

- 令和 6 年度より嘉瀬川の管理が武雄河川事務所から佐賀河川事務所へ移管されたため、規約及び公開方法に佐賀河川事務所を追記する。
- 了承する。

2. 嘉瀬川総合水系環境整備事業の事業再評価について（資料-2）

- 事業再評価の審議方法について確認したい。
- 学識者懇談会の中で事業再評価の審議を行っていただき、整備局の事業評価監視委員会において審議結果を報告する。学識者懇談会でのご意見について、付帯意見としてとりまとめる。
- 環境整備事業が完了するまでの期間で、どのような災害のリスク管理を行っていくのかを記載していただきたい。
- 環境整備事業における災害のリスク管理を示すことは厳しいと考えているが、どのようなことが考えられるかは検討していきたい。
- 音無地区の整備内容に「管理用通路」とあるが、河川管理者が管理するだけの通路と捉えられるため、地域の方が利用できるというイメージが入っていた方がよい。
- 音無地区の湿地環境を維持していくための通路という位置付けであるが、関係者の方々と協議を進めながら、今後の利用を考えていきたい。
- 富士しゃくなげ湖は、国民スポーツ大会で利用され、非常に盛り上がったということであるが、問題はその後の利用をどうするかということである。
- 嘉瀬川ダム利活用推進協議会の中で実証実験を重ねながら、どのような利用ができるのかを引き続き検討していくこととしている。
- グリーンインフラについて、具体的にどのような取り組みをしているのか。
- 「嘉瀬川水系流域治水プロジェクト 2.0」は気候変動下での取組みを整理したものであり、その中での今後の河道整備において、どのような環境を保全・創出していくかを「グリーンインフラ」として当面の目標として掲げているものである。
- 環境整備事業は 5 年毎に再評価を行っているが、長期的な視点も含めて事業を進めていただきたい。
- 整備と併せて環境・地域を将来的にどのようにしていくかについて、今後検討していきたい。
- 音無地区について、防災面も踏まえ一方向のアクセス経路が断たれた場合を考えて両側からのアクセス経路を整備した方がよい。
- 管理用通路は令和 7 年度に整備を完了する予定としているが、並行して利活用を踏ま

えたゾーニング計画等を考えており、その中でアクセス道路も検討していきたい。

■B/C が 9.1 と大きい値がでているが、何をもってこれくらい効果が高く出ているか教えていただきたい。

○アンケート調査に基づく支払い意思額に集計世帯数を乗じて便益を算出している。

■アンケートに良心的に回答いただいていると思われる。具体の計算方法を教えていただきたい。

○後で具体の計算方法を提示する。

■将来的には、民営として利活用や維持管理を行っていくような仕掛けを入れていくことによって、環境整備事業の良さがでてくる。

○先を見据えて、地域の方や NPO も含めて話をしながら、嘉瀬川全体を通してどういうことが地域にとって大事かを考えていきたい。

■資料 P.2 に関して、嘉瀬川大堰の魚道で魚類によっては遡上できない状況もあるので、アユのみでなく、ヤマノカミなども触れてよいと思われる。

○記載内容など、今後検討していきたい。

■嘉瀬川ダムでは、堆砂の課題や下流河川での置き砂対策の計画や実績はあるか。

○嘉瀬川ダムの堆砂量は計画以下で推移している。また、平成 29 年度に試験的に置き砂を行っている。

3. 松浦川総合水系環境整備事業の事業再評価について（資料-3）

■松浦川中上流では、唐津湾から松浦川に回遊するウグイの産卵場が形成されていたと考えられる。ウグイは砂の混じった河床では産卵しないため、砂の混じらない礫（5 cm 前後）による早瀬を意識してつくる努力が必要である。グリーンインフラ等の取組において、回遊型ウグイの産卵場保全について検討していただきたい。

○重要種の保全だけでなく、松浦川を特徴するような典型性の種についても配慮が必要と考えている。引き続き、具体的な保全方法等について、ご助言をいただきたい。

■近年、アザメの瀬では外来植物の生育が確認されていると聞いている。外来種の繁茂についても、社会経済情勢等の変化であり、アザメの瀬における外来種の管理も進めていただきたい。

○アザメの瀬に限らず、外来種対応は重要な課題であると認識しており、事務所でも検討してまいりたい。

■厳木川中島地区では、現在でも地域住民による維持管理が進められているが、事業完了後も維持管理が継続され、効果が持続して発現されるように、地域住民等との協働体制の確保や地域のニーズを把握することに努めていただきたい。

○地域住民からも、自分たちで実施できることは継続していきたいとの前向きな発言はいただいているが、地域の高齢化も大きな課題と考えてる。行政として、地域とのコミュニケーションを継続し、行政と地域が一緒になって維持管理や活性化に取り組めたら良いと思っている。

■厳木川中島地区上流の厳木ダムでは、堆砂の課題や下流河川での置き砂対策の計画や実績はあるか。

○厳木ダムの堆砂量は計画以下で推移している。また、置き砂の実績は無い。なお、堆砂状況のモニタリングは継続しており、必要に応じて対策を講じることとなる。

■土砂や水質を含めて、河川環境の整備については重要と考えている。様々な事業を計画していると考えているが、河川環境の特性と整備内容や管理との関係について、必

要性を含めて詳しく説明があるとよい。

また、水質管理については、動植物の生息にとって重要な環境特性と考えているが、水質の課題は無いか。

- 河川整備計画において河川環境の保全と整備を掲げ、グリーンインフラの取組においても、瀬・淵、ワンド、たまり等の水辺環境の保全・創出を考えている。具体的には、厳木川中島地区においては、湾曲部や瀬・淵などの現在の河川環境の特性を保全しながら、賑わいの創出や水辺に近づける整備を進めていく考えである。今回の説明だけで詳細を説明することが困難であるため、次年度以降となるが、環境整備だけでなく、河川改修等を含め各事業について、現地で説明を行う機会を設けさせていただきたい。また、河川及びダムの水質については、モニタリングを継続しており、現時点で大きな課題は無い。

- 厳木川中島地区における今後の整備にあたっては、土砂管理の観点から、河床の経年変化等を分析・評価し、ワンド等の整備が長期的にどう変化するかを評価したうえで検討を進めていただきたい。

- 委員のご指摘のとおり検討を進めてまいりたい。

- 厳木川中島地区では、地域住民による維持管理が自主的に実施されており、住民の意識が高いため継続していると考えられる。しかし、少子高齢化が今後進行した場合、活動に対する義務だけでなく、地域が盛り上がる工夫が必要と考えられるが、具体的な考えはあるか。

- 厳木川中島地区では、川リンピックという川に子ども達を呼び込むイベント開催のために、水草撤去を継続して実施している。しかし、委員ご指摘のとおり、少子高齢化による活動の継続性は、今後の課題であると認識している。

- 地域住民による維持管理は、コスト縮減という観点だけでなく、かわまちづくりの一環として組み合わせる工夫があるとよい。

- 厳木川中島地区のアンケートにおいて、事業との関連で、回答者の範囲や結果を分析しているか。

- 厳木川中島地区のアンケートは、今年度を実施し、集計範囲は中島地区を中心として、半径 15km 範囲の唐津市、多久市、小城市などから回答を頂いている。中島地区の支払意思額が河口部地区より高い理由は、河口部は散策等が中心であることに対して、中島地区はイベント開催や体験型学習などでポテンシャルが高いためと推察している。

4. 審議結果

嘉瀬川及び松浦川総合水系環境整備事業について、対応方針原案どおり「事業継続」で了承する。

以上